

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	宮前区第3グループ(蔵敷・菅生)	評価対象年度	平成27年度
事業者名	・事業者名 特定非営利活動法人あかい屋根 ・代表者名 理事長 丸山 幸一 ・住所 川崎市宮前区菅生ヶ丘13-2	評価者	青少年支援室長
指定期間	平成23年4月1日～平成28年3月31日	所管課	子ども未来局青少年支援室

2. 事業実績

利用実績	蔵敷子ども文化センター ①年間延べ利用者数	H26 22,935人	H27 22,388人	②年間延べ利用団体数	H26 385団体	H27 709団体
	菅生小学校わくわくプラザ ①登録者数	303人	319人	②年間延べ利用者数	12,769人	15,450人
収支実績	蔵敷小学校わくわくプラザ ①登録者数	477人	556人	②年間延べ利用者数	23,657人	24,847人
	菅生子ども文化センター ①年間延べ利用者数	41,611人	43,756人	②年間延べ利用団体数	820団体	744団体
収支実績	菅生小学校わくわくプラザ ①登録者数	293人	292人	②年間延べ利用者数	16,465人	13,970人
	収入 指定管理料	単位:円 80,303,442				
収支実績	支出 人件費	69,332,805				
	管理費	4,151,219				
	事務経費	6,456,715				
	その他経費	0				
合計	79,940,739					
差引	362,703					
サービス向上の取組	「365子ども会議」を合言葉に、日常の会話から子どもたちのニーズを、イベント終了後は振り返りの時間の中で、要望を聞き出すことが出来ており、利用者が着実に増加している。					

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
事業の推進	事業推進 及び 事業成果	順調に事業の推進が図られているか	10	4	8
		事業計画に基づき、子ども文化センター事業とわくわくプラザ事業を着実に実施したか			
		子ども文化センターの利用者数に増加傾向が見られるか			
		わくわくプラザにおいて、適切に児童を受け入れているか			
わくわくプラザで低学年時に安心して過ごしている子が、学年が上がってスムーズに子ども文化センター利用に移行できるように、年に3～4回の子ども文化センターで活動できるような「みんなでお昼」などの事業を実施し、子ども文化センターとわくわくプラザの融合を図るなどの取り組みにより、利用者数が昨年度よりも増加している。					
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	適切な会計処理及び金銭管理をしているか	5	3	3
		計画に基づき適切な支出をしているか	5	3	3
	効率的な執行等、経費削減に具体的に取組んでいるか				
	サービスの水準を確保しているか				
支出に見合う効果が得られているか	会計処理及び金銭管理を適切に行っている。年間延べ4000人にも上る無償ボランティアの協力を得て事業を実施し、直接的な費用だけでも年間350万円程度の経費節減が図られている。利用者にも、遊具は大切に使用するよう協力を求めることにより、モノを大切にすることを育むと共に、不要なストックを廃し、管理経費節減に努めている。				

サービス向上及び業務改善	施設・事業の広報	施設や事業の周知に積極的に取り組んでいるか	5	4	4
	利用者への対応	利用者に対するサービスが適切にされているか	5	5	5
		特別な配慮を要する利用者への対応が適切にされているか			
	運営協議会の実施	こども文化センター運営協議会を実施しているか	5	3	3
	保護者懇談会の実施	わくわくプラザ保護者懇談会を実施しているか	5	3	3
	学校及び行政機関との連携	事業実施に当たり学校、行政及び地域等と連携しているか	10	4	8
	利用者ニーズ	利用者ニーズを把握し、事業運営に反映させているか	10	3	6
<p>地域広報紙「ひまわり」を毎月約1500枚発行し、単に行事のお知らせではなく、こども文化センターの存在意義や、その目的を多くの地域の方々に理解していただけるような内容となっており、地域の16自治会の協力を得て、回覧板で広報するなど積極的に取り組んでいる。特別な配慮を要する利用者への対応は適切に実施されており、27年度においては、必要な支援が受けられていない児童に対して、学校・児相・区役所・こども文化センターと定期的にケースカンファレンスを開催し、連携して障害者手帳の取得について積極的な支援を行うなど、通常期待される事業者の役割を超えた取組を行っている。こども文化センター運営協議会、わくわくプラザ保護者懇談会を実施している。菅生こども文化センターで毎年実施している「わかば祭」では、27年度は40周年ということで、中学校の吹奏楽部の演奏のほか、稗原小学校の「稗原太鼓」の演奏も加わり、事業実施に当たりより一層の学校との連携が図られている。また、菅生・蔵敷こども文化センター、菅生・南菅生保育園、地域子育て支援センターすがお、菅生分館の6施設と菅生中学校地域教育会議と区役所子育て支援室が協力して、定期的に「すがお手つなぎまつり」企画会議を実施し、地域の子どもに関連する施設との連携が図られ、地域の特性を生かした特色のある事業を行っている。常日頃から子どもたちの意見を聴くことを徹底しており、保護者や地域の方の意見についても、自治会や合会に出席し、ニーズの把握に努めている。</p>					
組織管理体制	適正な人員配置	川崎市児童福祉施設の設備及び運営の基準に関する条例第54条の規定に従い職員を配置しているか	10	3	6
		こども文化センター及びわくわくプラザの施設管理と事業運営のために、指定管理仕様書において定める職員配置の最低基準どおりに人員を配置しているか			
		川崎市公契約条例を遵守しているか			
	職員の研修体制	職員のスキルアップに必要な研修を実施したか(外部研修の受講を含む)	10	4	8
	個人情報等の取扱	個人情報保護に関する規定や体制を整備し、適正に取り組んでいるか	5	3	3
<p>職員配置については、事業計画書で提案した通り、適切に人員を配置している。27年2月におきた「中学生死亡事件」をうけて、中学生の自死や、中学生のホームレス殺害事件に詳しい講師を招いて、思春期の心理と命の尊厳について研修を行った。研修については、地域にも公開して、参加を呼び掛け、共に深く考えることで、研修の成果を事業運営にも生かしていた。限りある予算の中で、常時2名以上のスタッフが配置され、緊急時や利用者の増加、要支援児童等に対して柔軟な対応ができる体制が確保されている。個人情報漏洩等はない。</p>					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障を来たすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備、備品管理等を適切に実施しているか	5	3	3
	利用者の安全確保	利用者の安全を確保する体制(マニュアル等)を整備しているか	5	4	4
		事故等が発生した場合に適切な対応をしているか			
		感染症予防対策や発生時において、適切な対応をしているか			
	防犯対策及び災害時の対応	施設の防犯のための工夫をしているか	5	3	3
		災害発生時に備え、マニュアル等を整備しているか			
災害発生時に確実な対応・行動を取るための取組をしているか					
<p>菅生こども文化センターの土留め工事、低木の伐採などを職員の自助努力により実施している。また、始業時点検、ハウスキーピング、終業時点検を確実に実施することにより安全管理を行っている。事故が発生したときは、速やかな報告と問題点解決に向け親身になった対応に努めている。利用者、児童を含めて避難訓練を実施しており、マニュアルについても作成している。</p>					

4. 総合評価

評価点合計	70	評価ランク	B
-------	----	-------	---

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

菅生こども文化センターで行っている「すがおこども大学」で「川崎市寺子屋事業」の体験活動世代間交流部門を受け持つなど活躍の場が広がり、魅力あふれる地域の拠点としてなくてはならない存在となっている。地域のマンパワーを存分に活用していることも評価できる。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

今後とも、地域に根ざした魅力ある施設として、一人ひとりの子どもたちに寄り添った事業を展開すること、また、各施設の立地環境を考慮し、土砂災害等個別の状況に応じたマニュアル等を整備することを期待する。